

# ひょう害を受けた小麦ほ場の後作水稻栽培上の注意点について

令和4年6月8日

埼玉県農林部

6月2日、3日の降ひょうに伴い小麦ほ場で倒伏、脱粒、折損が生じ、収穫作業や水稻作付に支障が生じています。水稻の本田初期の肥培管理をしっかりと行い、安定栽培につなげることが重要です。

そこで、技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。

## 1 麦わらの処理について

- (1) 畜産農家と連携して敷料等に活用する。
- (2) 搬出して堆肥化する。
- (3) 均一に拡散させてすき込む。
  - ・コンバインでの収穫が可能なほ場ではコンバインカッターで10 cm程度に切断する。
  - ・ストローチョッパーやモアで切断する。

## 2 水稻栽培時の施肥について

以下の計算式と(1)～(3)により、本年の元肥窒素施用量を計算する。

慣行栽培の元肥 窒素施用量	+	麦わら分解促進 用窒素増肥量	-	減肥量	=	本年の元肥 窒素施用量
------------------	---	-------------------	---	-----	---	----------------

- (1) 麦わらを初めてすき込む場合、元肥の2割増肥や石灰窒素の20 kg/10 a 散布を行い、わらの腐熟を促進させる。
- (2) 麦わらを連用している場合には増肥等を行わない。
- (3) ほ場にすき込まれる子実の窒素量を計算し、これの1/3を減肥する。

ほ場にすき込まれる窒素量 (kg/10 a)								
ほ場に落下した 子実重 (kg/10 a)	×	子実中のタン パク含量 (%)	×	タンパク中の 窒素割合 (%)	×	1/3	=	減肥量 (kg/10 a)
300	×	10	×	17	×	1/3	=	1.7

※標準収量から実際の収量を差引くなどして落下した子実量を計算する。

※タンパク中の窒素割合は小麦タンパク中の窒素割合

※「現場の土づくり・施肥 Q&A '96年改訂版」P242 参照

- (4) 生育中に葉色が薄いなど窒素不足の症状がみられる場合は窒素成分で1～2 kg/10 a 追肥を行う。

### 3 田植後の水管理について

- (1) 麦わらや子実をすき込んだ場合は、入水後に有機物の分解に伴い土壌が還元化し、有機酸やガス等が発生し根の生育を阻害するので、田植後2週間を目安に軽く干してガス抜きを行う。
- (2) すき込み後、好天が続き高温になると急速に有機物の分解が進むので注意する。
- (3) ガス抜き後に雑草の発生が見られる場合は、除草剤の中期剤等の散布を検討する。